



水と火と健康寿命の聖地

聖火リレー・世界の水の偉人灯籠

2019.4.29

松江市八雲町

No 25



人間自然科学研究所



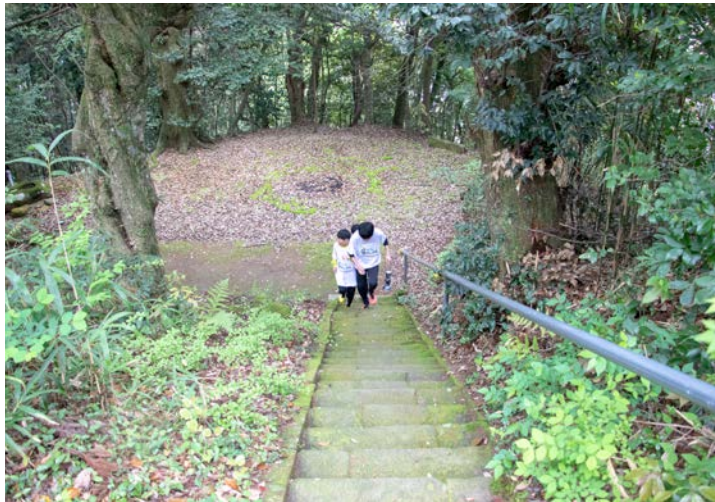




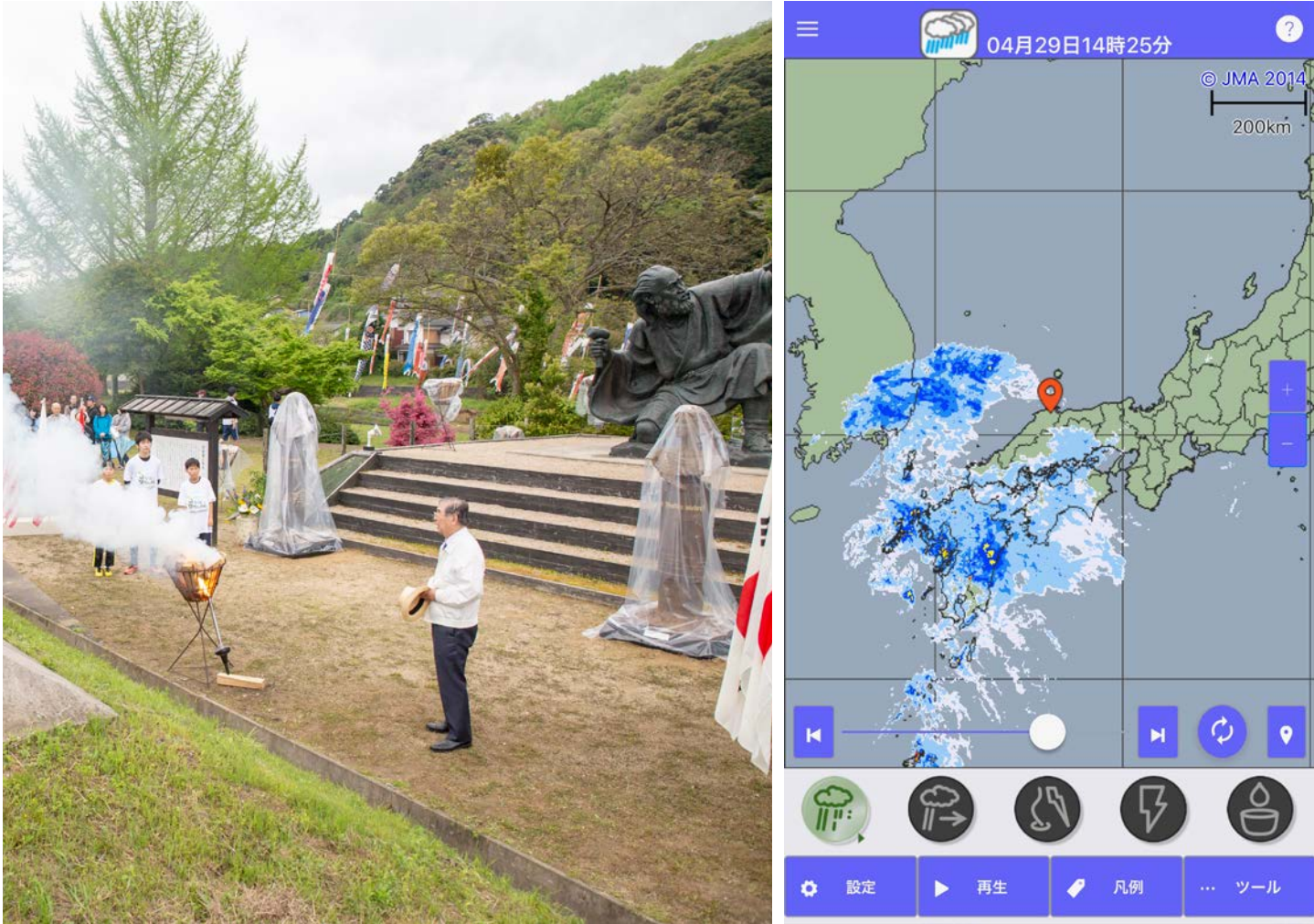




















日本全国の水の偉人リスト							
はじめに							
4月29日に開催する火と水のプロジェクトとし熊野大社鎮火殿で起こした火をいただき、岩坂御陵・神魂神社・切通し・剣神社・周藤彌兵衛翁像を火で繋ぐ聖火リレーを開催します。							
八雲ゆう人会の鯉のぼりとあわせ、周藤彌兵衛翁をはじめ世界の水の偉人を称え1000個の灯籠に名前・功績を記載し熊野大社の火を灯し周藤翁像と意宇川と鯉のぼりと灯籠で悠久の河を演出します。							
4月に東京で開催された日本ビジネスインテリジェンス協会東アジア友愛フォーラムを経て、7月に中華農耕文明の発祥地とも言われる楊凌・西安から発表できる可能性が見えてきました。							
また、北陸農政局による九頭竜川下流農業水利事業として福井県を流れる九頭竜川の監視管理を2019年4月より範囲を拡大し開始しました。							
注1) 黒字は農林水産省調査による日本の水の偉人 注2) 青字は2019年4月24日小松電機産業調査による日本の水の偉人 注3) 灯籠への記載は「都道府県・市町村」「人物名」「生没年」「功績」を記載 注4) 灯籠に記載する功績は「灯籠記載功績文」とします。(25字～40字以下)							
	エリア	功績地		出生地	人物名	功績 (80字～100字)	灯籠記載功績文 (25字～40字以下)
		都道府県	市町村				
0	北陸信越	福井県	坂井市	福井県坂井郡鳴鹿村	酒井利雄	坂井郡8千町歩の用水取入口であった鳴鹿大堰所の改良工事を計画、戦争で中断したが、戦後、昭和22年国営九頭竜川沿岸農業水利改良事業を5ヶ年計画で施工。24年より本格的に着手。そして28年に待望の通水となり、翌年に竣工した。	坂井郡8千町歩の用水取入口の鳴鹿大堰所改良工事を計画、戦争で中断したが戦後に国営九頭竜川沿岸農業水利改良事業として竣工。
1	北海道	北海道	札幌市	アメリカ合衆国　オハイオ州	エドウィン・ダン	真駒内牧牛場における水の安定供給のために建設を提案し、1879年に完成した真駒内用水は、のちに水田の灌漑用水としても利用され、周辺地域における稲作の定着に大きく貢献した。	真駒内用水は、のちに水田の灌漑用水としても利用され、周辺の稲作の定着に大きく貢献した。
2		北海道	石狩市	岡山県岡山市	岡崎文吉	岡崎式河川補修の基礎技術である単床式ブロックは、岡崎没後25年を経た1970年頃の石狩川河口付近の補修に採用されており、またミシシッピ川流域の護岸工事にも使われている。	石狩川治水にその情熱と技術を捧げ、「北海道治水の父」と称される。
3		北海道	小樽市	高知県	廣井　勇	広井勇博士は防波堤に当たる波の強さを測定し、防波堤に使うコンクリートの性能を試験し、日本初のコンクリート製の外洋防波堤を建設しました。小樽港の成功によって日本の近代港湾の整備が進みました。そのことから、小樽港の防波堤、特に北防波堤は重要文化財と同じくらいの価値を持つと評価されています。	小樽港防波堤工事をはじめ北海道各港の築港工事を大きく前進させた。
4	青森県	十和田市	花巻市	新渡戸傳		米の生産を安定させ農民たちの生活を救うため、奥入瀬川から水を引き、不毛の三本木原台地に2,500haの水田を開発する計画をたてました。資金は、藩からの出資金のほか沢山の出資者を募り、傳の私財も充てられました。	不毛の三本木原台地に稲生川を開削し、2,500haの水田を開発した。
5	青森県	五所川原市	北津軽郡中里町	武田源左衛門		翌元禄4年には、五所川原堰の工事担当を命ぜられ、藤崎村から五所川原村まで長さ1824間、幅平均2間半の堰を開通させたほか、金木新田の開拓や治水に大いに力を振るい、数々の功績を挙げました。	藤崎村から五所川原村まで堰を開通させたほか、金木新田の開拓や治水等数々の功績を挙げた。
6	青森県	五所川原市		徳田伝兵衛		徳川中期。金木新田開拓の功労者。元禄11年(1698)より、水利関係の奉行として、長さ1381間(約2.2キロ)の川倉川、ならびに長さ2210間(約4キロ)のオノ神川開削を指揮しました。また藤枝溜池を造成するとともに、岩木川の堤防築造などにも尽力しました。	川倉川、オノ神川開削を指揮した。また藤枝溜池を造成するとともに、岩木川の堤防築造などにも尽力した。
7	青森県	五所川原市		鳴海勤兵衛		津軽信政から藩の直営工事の開発派立頭(指揮者)を命ぜられ、五所川原新田15ヶ村の開拓に成功し、五所川原道初代の代官となりました。また、板屋野木(北津軽郡板柳町)の蔵奉行にも任じられました。続いて、金木新田18ヶ村の開拓にも尽力し、藤枝溜池(金木町)の築造に協力したり、岩木川堤防の建設にも努力しました。	藩直営工事の開発派立頭を命ぜられ、五所川原新田15ヶ村の開拓に成功し、五所川原道初代の代官となる。
8	青森県	五所川原市	五所川原	阿部武智雄		岩木川改修期成同盟会長として岩木川の治水に尽力し、また造林事業にも力を注いだ。	岩木川改修期成同盟会長として岩木川の治水に尽力し、また造林事業にも力を注いだ。
9	岩手県	奥州市	岩手県	後藤寿庵		当時、水不足により砂漠のようだったこの地に、胆沢川から水を引く「寿安堰」をつくり、豊かな穀倉地帯の礎を築きました	水不足により砂漠のようだった地に、胆沢川から水を引く「寿安堰」を造り、豊かな穀倉地帯の礎を築く。
10	宮城県	石巻市	山口県萩市	川村孫兵衛		治山治水に優れた技術を発揮、政宗の命令で北上川改修工事の責任者となる。	治山治水に優れた技術を発揮、政宗の命令で北上川改修工事の責任者となる。
11	宮城県	石巻市	石巻市	石母田正輔		特に水道事業の完成と市制実現の事蹟はまことに偉大なものあり、石巻町制施行以来歴代町長市長中最高の殊勲殊功を樹てた偉大な人材であつた。	財政事情から困難とみられていた水道事業を完成させた
12	宮城県	角田市	角田市	高山善右衛門(高山上水翁)		大沼干拓と角田上水の大土木事業を成し遂げ、阿武隈川から取水が実現した。功績により「上水」の称号を賜り、高山上水翁と呼ばれる。	大沼干拓と角田上水の土木事業を成し遂げ、阿武隈川から取水を実現した
13	宮城県	男鹿市	秋田県	渡部斧松		寒風山山麓の滝の頭湧水から水路を掘削した鳥居長根の開墾、久保田藩の水利、開墾、救済、殖産等の各事業において、多大な功績を遺した	寒風山の滝の頭湧水から掘削した鳥居長根の開墾、久保田藩の水利、開墾等の各事業に於いて、功績を遺す。
14	宮城県	大崎市	宮城県大崎市	鎌田三之助		鹿島台村長に就任、以来10期38年に渡って務め品井沼干拓事業と村政立て直しに尽力した。	鹿島台村長に就任、以来10期38年に渡って務め品井沼干拓事業と村政立て直しに尽力した。
15	宮城県	白石市		片平観平		私財を投げ打って治水工事を行った。その後、10年の年月をかけ苦難を乗り越えて「蔵本大堰切通トンネル」は完成した。	私財を投げ打って治水工事を行う。その後、10年の年月をかけ「蔵本大堰切通トンネル」は完成した。
16	秋田県	男鹿市	オランダ　ドルドレヒト	ピーター・F・ヤンセン		ヤンセン教授の来日を契機として同年の世界銀行および国際連合食糧農業機構FAO調査団が調査した結果、干拓事業の有用性が内外に認められました。	ヤンセン教授の提案で国際連合食糧農業機構が調査した結果、八郎潟干拓事業の有用性が内外に認められた。
17	東北	秋田県	大仙市	秋田県大仙市	榊田清兵衛	西山を掘削することになり、1921年(大正10年)着工、1927年(昭和2年)に赤川新川は完成した。	西山を掘削することになり、1921年着工、1927年に赤川新川は完成した

18	秋田県	昭島市	太平八田字上八田	鎌田孫左衛門	太平地区の灌漑用水を完成させ、これにより目長崎、八田、柳田、広面にかけての広大な荒地が開田された。	太平地区の灌漑用水を完成させ、これにより目長崎、八田、柳田、広面にかけての広大な荒地が開田された。	1653年～1712年	
19	秋田県	湯上市	湯上市	石川理紀之助	生涯を農村の更生、農家の救済、農業の振興のために捧げ、秋田の二宮尊徳と呼ばれた。	生涯を農村の更生、農家の救済、農業の振興のために捧げ、秋田の二宮尊徳と呼ばれた。	1845年～1915年	
20	山形県	米沢市	宮崎県	上杉鷹山	大侯約令と一緒にに行ったのが農業開発です。上杉鷹山は安永元年(1772年)、中国の成功例をまねます。遠山村で藩主が、自ら田を耕す「籍田の礼」をおこないます。農業の尊さ、大切さを身をもって示しました。	農業の尊さ、大切さを身をもって示した。当時の日本では、武士が農業をすることは無かった。	1751年～1822年	
	山形県	酒田市	酒田市	阿部永作	15年間雑木の伐採を厳禁し、水源林の育成に努めた。2700町歩の水源林は守られ、そのため北俣村の洪水は少なくなった。	15年間雑木の伐採を厳禁、水源林の育成に努めた。2700町歩の水源林は守られ、北俣村の洪水は減少。	1854～1927	
21	山形県	酒田市	酒田市	石塚綱吉	その後も苦労を重ねたが、同村地内に揚水機を設置した。綱吉の熱心な働きで、昭和9年当時、100町歩余のかんがい開墾事業に成功し、荒れていた地は美田となった。山麓に位置するこの水田の収量は、昭和14年度には平野部に劣ることはなかった。この事業の成功によって、経済的に苦しかった村は救済された。	上郷村成興野地内100町歩余のかんがい開墾事業に成功し、荒れていた地は美田となった。	1867～1946	
22	山形県	庄内町	庄内町	佐々木彦作	干害に苦しむこの地の農民をみて、彦作は新しい堰を造る決意をし、その計画に着手した。最初の計画は失敗したが、事業家吉田寅松によって彦作の夢が明治43年8月実現され、990町歩が開田された。	干害に苦しむこの地の農民をみて、彦作は新しい堰を造る決意をし、その計画に着手した。	1819～1880	
23	山形県	酒田市	酒田市	佐藤文治	榊田や久松、佐藤文治らの努力が実り、大正10年6月、西山開削の工事が実施された。工事費292万円余、労働者延べ2万7700人余を投入して、昭和2年7月に延長2800メートルの赤川新川が開通した。	京田川の堤防の新設、赤川の排水溝や堤防の新設などを行った。	1870～1934	
24	山形県	鶴岡市	山形県鶴岡市	木村九兵衛	水不足解消するため「電力揚水機」導入、我が国の「農業電化」の最初。農業電化の“生みの親”	水不足解消のため「電力揚水機」導入、我が国の「農業電化」の最初。農業電化の“生みの親”	1854～1933	
25	山形県	酒田市		梅津晴宗	約4200人の人夫と3年間の年月を要して文政3年に完成、灌漑面積は150余町に及び、収穫も倍となり、戸数、人口も増加している。	約4200人の人夫と3年間の年月を要して文政3年に完成、灌漑面積は150余町に及ぶ。	1767～1843	
26	山形県	酒田市	遊佐町	今野茂作	上市神新田村より西に長さ約19町に及び日向川新川掘割が完成したのは文久2年で、要した人夫が遊佐郷・荒瀬郷等から延べ20万人という大工事であった。	長さ約19町に及び日向川新川掘割が完成したのは文久2年で、要した人夫が延べ20万人という大工事であった。	1818～1882	
27	福島県	須賀川市	オランダ　ブルメン	コルネリス・ファン・ドールン	73年に日本の技術者のために《治水総論》を著し、さらに後年に《治水要目》および《堤防略解》を記して、日本の治水土木事業の基礎を作った。	日本の技術者のために《治水総論》を著しさらに《治水要目》《堤防略解》を記して日本の治水土木事業の基礎を作った。	1837年～1931年	
28	福島県	須賀川市	福島県那須川市	小林久敬	安積疎水の必要性を強く明治政府に訴え、その実現に尽力し、現在の郡山市の基礎を築いた。	安積疎水の必要性を強く明治政府に訴え、その実現に尽力し、現在の郡山市の基礎を築いた。	1821～1892	
29	福島県	須賀川市	福島県郡山市	小野口仁蔵	安積疎水に功績があった人物です。（安積疎水とは、明治時代に猪苗代湖から農業用に開削した疎水で、郡山市周辺の農業に多大な恩恵をもたらしています）"	明治時代に猪苗代湖から農業用に開削した疎水で、郡山市周辺の農業に多大な恩恵をもたらした	不詳	
30	茨城県	常陸	山梨県甲斐市	永田茂衛門	永田茂衛門とその子　勘衛門は、水戸藩の三大江堰とよばれる、辰ノ口、岩崎、小堀の三江堰の開設工事に従事し、完成させた人物です。	永田茂衛門は、水戸藩の三大江堰とよばれる、辰ノ口、岩崎、小堀の三江堰の開設工事に従事し、完成させた。	生年不詳～1659年	
	茨城県	潮来市	茨城県香澄村	須田誠太郎	政府に訴え利根川に堤防を作った。利根川治水の父と呼ばれる	親子二代に渡り利根川治水に尽力し「利根川治水の父」と呼ばれた。	1881年～1969年	
	茨城県	常陸市	千葉県	色川三郎兵衛	天保(てんぽう)13年11月2日生まれ。常陸(茨城県)土浦の醤油醸造業色川家の養子。維新後、県会議員をへて明治23年衆議院議員(当選2回)。土浦を水害からまもるため、鉄道の計画路線変更や河口水門の建設につくした。	鉄道会社に敷設計画を変更させ、線路の盛土を湖岸堤の代わりとして作らせなどして、水害対策に尽力した。	1842年～1905年	
31	群馬県	桐生市	栃木県佐野市	田中正造	足尾銅毒事件、渡良瀬川および利根川水系の水害に対して、その全生涯を反公害闘争と民衆救済のために捧げた政治家。精神的な治水行脚を行い、水害の原因が渡良瀬川水源地域の森林の大量伐採、関宿の安塚と栗橋鉄橋の設置にあると喝破し、「近自然河川工法」の先駆となる。	渡良瀬川水害の治水行脚を行い、民衆救済のための提言に生涯を費やした。	1841年～1913年	
32	栃木県	那須塩原市	栃木県日光市	印南文作	不毛の土地であった那須野が原の開拓に努力し、明治18年に那須疎水の開削を実現させ、豊かな農地に変えました。	不毛の土地であった那須野が原の開拓に努力し、明治18年に那須疎水の開削を実現、豊かな農地に変えた。	1831年～1888年	
33	栃木県	那須塩原市	栃木県矢板市	矢板武	不毛の土地であった那須野が原の開拓に努力し、明治18年に那須疎水の開削を実現させ、豊かな農地に変えました。	不毛の土地であった那須野が原の開拓に努力し、明治18年に那須疎水の開削を実現、豊かな農地に変えた。	1849年～1922年	
34	埼玉県	さいたま市	和歌山県海南市	井澤弥惣兵衛	見沼を干拓し、見沼に代わる水源を利根川に求め、長さ六十軒余りの見沼代用水を半年余りで完成させ、十二百町歩の新田を開発しました。	見沼に代わる水源を利根川に求め、長さ六十軒余りの見沼代用水を完成させ、十二百町歩の新田を開発した。	1654年～1731年	
35	埼玉県	川越市	埼玉県川越市	奥貫友山	寛保の大洪水にて、自己私財すべてを費やし、農民を救援し48ヶ村の10万6千名の命を救ったとされる。その後、自費で水堰と呼ばれる植林を続けたり、治水や防災に尽力した。	大洪水の救援に私財を費やし、十万六千名の命を救い、治水や防災に尽力した	1708年～1787年	
36	埼玉県	志木市	埼玉県志木市	白井武左衛門	用水に乏しい宗岡に野火止用水を引くため、交差する新河岸川に「いろは樋」という掛樋を架設した。この架設によって宗岡村の農業発展に寄与した。また宗岡村の洪水を防ぐため、東西の新河岸川堤と荒川堤を結ぶ北側の佃堤、南側の新田場堤を築造し、宗岡村の惣囲堤を完成させ、治水整備に尽力。	野火止用水や惣囲堤を完成させ、用水に乏しい宗岡村の農業発展に寄与した	江戸中期	
37	千葉県	旭市	愛知県尾張	大原幽学	現千葉県旭市を中心に房総の各地をはじめ信州上田などで、農民の教化と農村改革運動を指導し大きな事績を残した人物です。	現千葉県旭市を中心に房総の各地をはじめ信州上田などで、農村改革運動を指導し大きな事績を残した。	1797年～1858年	
38	関東	東京都	立川市	兵庫県	安松金右衛門	武蔵川越藩士。江戸の水不足を解消するために多摩川の引水工事として、玉川上水、野火止用水を完成させた。	水不足解消のために多摩川の引水として、玉川上水、野火止用水を完成させた	1611年～1686年

42	東京都	渋谷区	東京都	古市武威	内務省土木局のトップとして全国の河川治水、港湾の修築のみならず、日本近代土木行政の骨格を作るとも、工科大・土木系の骨格を作るとも、工科大・工学系・土木学会長・工学会の会長として、日本近代工学ならびに土木工学の制度を作った。	内務省初代土木技監として全国の河川治水を指揮し近代土木行政の骨格を作った	1854年～1934年
43	東京都	府中市	東京都府中市	川崎平右衛門	府中周辺の多摩川大洪水の後の治水工事や新宮(大園魂神社)・東照宮の修理などに尽力するとともに、多摩地域の発展の礎となった武蔵野新田の安定化や新田村々の救済・復興の立役者。世界遺産で有名な島根県大田市の石見銀山の経営でも活躍。	府中周辺の多摩川大洪水の後の治水工事に尽力。多摩地域の発展と新田村々の救済・復興の立役者	1694年～1767年
44	埼玉県	伊那町	愛知県西尾市	伊奈忠次	埼玉郡柏壁宿(春日部市)の名主。また水害を防ぐために自費を投じて五百間の堤を築いた。その後、再度洪水が襲ったが、戸毎に説いて土俵をつくらせ古堤の上に積ませた。昼夜の働きにより下流の田地およそ二万石以上の流失を免れることができた。これが喜蔵堤と名付けられた堤である。	利根川の東遷により、生活物資が江戸へ安定して送られ江戸の発展が伊奈家の利根川東遷によって支えられた。	1550年～1610年
45	埼玉県	春日部市	埼玉県春日部市	見川喜蔵	埼玉郡柏壁宿(春日部市)の名主。天明六年、関東は大洪水により飢饉となったが、自家用の米を出し、地主を説得して米麦を供出させ、窮乏した農民を救済。また水害を防ぐために自費を投じて五百間の堤を築いた。その後、再度洪水が襲ったが、戸毎に説いて土俵をつくらせ古堤の上に積ませた。昼夜の働きにより下流の田地およそ二万石以上の流失を免れることができた。これが喜蔵堤と名付けられた堤である。	古利根川に自費で「喜蔵堤」という堤防を築き、水害から村々を救った	1739年～1805年
46	東京都	台東区	愛知県岡崎市	大久保藤五郎	家康に命じられ、奉行として江戸小石川上水(のちの神田上水)を完成させ主水の名をあたえられた。	家康に命じられ、奉行として江戸小石川上水(のちの神田上水)を完成させ主水の名をあたえられた。	不詳～1617年
47	埼玉県	川口市	埼玉県	伊奈忠治	伊奈忠次の次男。利根川、荒川の改修工事や江戸川などの開削	利根川の東遷により、生活物資が江戸へ安定して送られ江戸の発展が伊奈家の利根川東遷によって支えられた。	1592年～1653年
48	埼玉県	坂戸市	埼玉県坂戸市	大川平三郎	日本の製紙王と呼ばれる大川財閥の創始者。水害が多発していた越辺川の堤堤防築造工事として私財を投じて「大川堤」を築いた。	水害が多発していた越辺川に大川堤を築き、治水に尽力した	1860年～1936年
49	神奈川県	海老名市	海老名村	望月珪治	1930年8月近郷7か町村を結合して相模川左岸普通水利組合を設立し、かんがい用排水改良事業を完成させた。	近郷7か町村を結合して相模川左岸普通水利組合を設立し、灌漑用排水改良事業を完成させた。	1883年～1969年
50	山梨県	南アルプス市	山梨県	徳嶋兵左衛門	重崎村から富士川舟運の起点、殿沢までの水路の開削が計画され徳嶋兵左衛門の私財により工事が始められた。	日本水利史上三大堰の一つ　延長約一七キロメートルの徳島堰を拓いた	1620年？～没年不詳
51	山梨県	甲斐市	甲斐国	武田信玄	戦国時代の有力大名。当時沓瀝が多発していた釜無川に20年以上にわたる堤防工事を行い、「信玄堤」という堤防を築いた。	20年以上にわたる工事ににより釜無川に信玄堤を築き、治水に尽力した	1521年～1573年
52	長野県	茅野市	長野県茅野市	坂本養川	茅野市・原村を中心とした諏訪藩に40年以上かかって、18本以上の用水路を作りました。「養川せぎ」と呼ばれています。	茅野市・原村を中心とした諏訪藩に40年以上かけて、18本以上の用水路を作り「養川堰」と呼ばれている。	1736年～1809年
53	新潟県	長岡市	新潟県長岡市	本間屋数右衛門	信濃川の大規模治水事業である大河津分水工の提唱者。日本一の水量を誇る暴れる信濃川の流量調節のための堰として、以後200年にわたる工事を経て完成。	信濃川治水事業の大河津分水工の提唱者。日本一の水量を誇る信濃川の流量調節堰として200年にわたる工事を経て完成	1716年～1801年
54	新潟県	上越市	新潟県	小栗美作	大澤郷の新田開発、中江・大澤両用水開削、直江津の築港、魚沼の銀鉱採掘など殖産興業に尽くした。	大澤郷の新田開発、中江・大澤両用水開削、直江津の築港、魚沼の銀鉱採掘など殖産興業に尽くした。	1626年～1687年
55	新潟県	高田市	京都府京都市	国友末蔵	1934年に建設した池尻川式揚水発電所は夏・冬の過水を緩和させ、発電事業と農業水利の共存を図ったものだった。	池尻川式揚水発電所にて夏・冬の過水を緩和させ、発電事業と農業水利の共存を図った	1881年～1960年
56	新潟県	妙高市	新潟県美守村	太田孫次右衛門	孫次右衛門は妙高市赤倉付近に土地を所有していたことから、地元の人々と連携して温泉の開発を行いました	妙高市赤倉付近に所有していた土地を地元の人々と連携し温泉開発を行った	1852年～1911年
57	新潟県	高田市	新潟県上越市	丸山豊次郎	長年続いた水争いを防ぐために地域の簡易水道敷設に取り組んだ	長年続いた水争いを防ぐために地域の簡易水道敷設に取り組んだ	1868年～1933年
58	新潟県	直江津市	新潟県直江津市	古川長四郎	佐渡汽船の設立と直江津港の設備改善に尽くす	佐渡汽船の設立と直江津港の設備改善に尽力した。	1895年～1949年
59	新潟県	三条市	新潟県三条市	松尾与十郎	当時の榊本県令が堤防をつくることを反対していた五十嵐川の北側の人々たちを説得して、南側の堤防をつくる許可を出した。与十郎は県から補助金が無かったので、私財を使って堤防をつりはじめ明治9年に完成した。	反対の多かった五十嵐川南側堤防の築堤許可に尽力私財を使い明治九年に完成させた	1832年～1886年
60	富山県	滑川市	富山県	権名道三	新田開発は、越中から能登・加賀までにも及び、生涯に開拓した面積は1,200町歩(1,200ヘクタール)にもなる。	越中から能登・加賀まで新田開発を行った。生涯開拓面積1,200町歩	1790年～1857年
61	富山県	富山市	オランダ　コレインスブラート	ヨハネス・デ・レーケ	砂防や治山の工事を体系づけたことから「砂防の父」と称される。	砂防や治山の工事を体系づけたことから「砂防の父」と称される。	1842年～1913年
62	富山県	黒部市	富山県朝日町	伊東彦四郎	加賀藩に黒部川からの用水開削を請願し1796年、11代藩主・前田治脩から財政援助を得た。しかし、水路をつくる右岸は断崖絶壁であり測量機械のない時代、彦四郎は工夫をこらして提灯の灯りを利用し夜、岩壁に登った人夫に、対岸から提灯の上げ下げを指図して、岸壁に印をつけさせて測量を進めた。	測量機械のない時代工夫を凝らし断崖絶壁の測量をし黒部川用水路開削を行った。荒れ地を水田にして地域を活性化させた	1758年～1834年
63	富山県	砺波市	富山県氷見市	浅野総一郎	日本で初めてとなる耐震設計理論を取り入れた小牧ダムを作った	小牧ダムを作ったことにより周辺地域の開発が進んだ	1848年～1930年
64	富山県	富山市	熊本県玉名市	高田雪太郎	その頃の富山県では水害が頻発しており当時の富山県知事は、常願寺川改修の必要性を痛感し政府に要請。政府は、デ・レイケを派遣する。デ・レイケは、県内各河川の調査を行い、そのほとんどに雪太郎は随行し記録を残している。そして基本計画を作成しデ・レイケの指導の下、雪太郎が施工することとなりました。	富山県では水害が頻発、政府は調査のためデ・レイケを派遣。基本計画を作成、デ・レイケの指導の下、雪太郎が施工。	1859年～1903年
65	富山県	富山市	愛知県名古屋	佐々成政	戦国時代、佐々成政は治水に取り組み、常願寺川がたびたび氾濫し、水害が起こっていたため、「佐々堤」の築造や、いたち川の改修を行いました。	水害が頻発してた常願寺川に佐々堤を築き、治水に尽力	1536年～1588年

66	富山県	砺波市	富山県砺波市	佐藤助九郎	庄川べりの開発村は幾度となく川の氾濫による水害に苦しめられていました。勘九郎16歳のときに佐藤組を起こし常願寺川の川工事を請け負うがその後何度も洪水をくりかえした。明治24年の常願寺川大洪水の工事の際に、内務省付属のオランダ人技師デ・レーケを招聘して指導を受け、見事、工事を成功させた。	常願寺川大洪水の工事を請け負い、オランダ人技師デ・レーケを招聘して指導を受け工事を成功させた。	1847年～1904年
	67	石川県	加賀市	石川県金沢市	高多久兵衛	高多久兵衛の行った田区改正は、西欧の土地改正をモデルにしており、その後、「石川式」として全国に広まった。	1851年～1907年
68		福井県	坂井市	福井県坂井市	渡辺泉龍	荒地の開拓を志し、藩主本多成重公の許可を得て、寛永二年約五年の歳月をかけ、東二ツ屋から山久保に至る延長二里十四町の新江用水を開いた。	生年不詳～1672年
	69	福井県	坂井市		継体天皇	次に地形を調査のうえ、大規模な治水を行い九頭竜川・足羽川・日野川の三大河川を造ることで湿原の干拓に成功した。このため越前平野は実り豊かな土地となり人々が定住できるようになった。続いて港を開き水運を発展させ稲作、養蚕、採石、製紙など様々な産業を発達させた。	507年～531年？
70		岐阜県	関市	愛知県尾張	喜田吉右衛門	長良川から取水し、岐阜県関市～美濃市の農地約1,000haを潤す幹線延長約17kmの曾代用水を開く。	生年不詳～1671年
71	岐阜県	関市	愛知県尾張	林幽閑	長良川から取水し、岐阜県関市～美濃市の農地約1,000haを潤す幹線延長約17kmの曾代用水を開く。	不詳	
72	岐阜県	関市	岐阜県武儀郡	柴山伊兵衛	長良川から取水し、岐阜県関市～美濃市の農地約1,000haを潤す幹線延長約17kmの曾代用水を開く。	1611年～1703年	
73	岐阜県	岐阜県養老郡	鹿児島県	平田靱負	洪水をたびたび起こす木曾三川から濃尾平野を守るために宝暦治水の指揮をとる。流行病の影響もあり、工事は難航し33名が病死する。平田靱負も工事完了後に責任をとって自害する。	宝暦治水を指揮し、洪水を繰り返す木曾三川から人々を救うために尽力した	1704年～1755年
74	岐阜県	愛西市	岐阜県岐阜市	山田省三郎	洪水の多い地域に生まれ、県会議員当選後に同じく水で苦しむ他の議員と協力し西濃治水派を形成する。治水の重要性を訴え続け「治水共同社」を結成するなど木曾三川の改修に尽力する。	治水の重要性を訴え、木曾三川の改修に尽力するなど、一生を治水にささげた	1843年～1916年
	75	岐阜県	岐阜市		酒井七右衛門	新しく堤防を造る場合は幕府の許可が必要になるが幕府の許可は簡単には下りない。水害で苦しむ人のために、幕府の許可を得るために尽力する。畑繁堤に貢献した人物として神社に祀られている。	？年～1819年
76		岐阜県	木曾三川水系	岐阜県大垣市（銅像あり）	金森吉次郎	明治29年に大洪水が西濃地方を襲い、一命を捨てる覚悟で村人を集め堤防を切り割り、輪中内にたまっていた水を琵琶川へ放出。結果、8000戸の家屋と4万人の人命を救うことになる。大正12年には、洪水の恐ろしさを広く世間に知らせようと、明治29年の浸水水位を礎石に刻み洪水標としました。	1864年～1930年
	77	静岡県	浜松市	静岡県浜松市	金原明善	天竜川の治水事業、北海道開拓・植林事業など近代日本の発展に活躍した人物。	1832年～1923年
78	静岡県	菊川市	静岡県菊川市	松下幸一	洪水を頻繁に起こす暴れ川であった菊川を改修する費用援助を国に何度もお願いする。その際に上京費用の捻出のため自身の田んぼを売却。1933年に堤防の改修工事が認められる。	洪水を頻繁に起こす暴れ川であった菊川の治水工事をするべく私財を投じ尽力する	1894年～？年
79	静岡県	菊川市	静岡県菊川市	黒田定七郎	洪水を頻繁に起こし水害をもたらす菊川や牛洲川の改修工事をを行うべく先頭に立って堤防改修に向けて行動する。大雨の際に壊れた、菊川の堤防修復を指揮し被害の拡大を防ぐ	破損した菊川の堤防を、修復するべく大雨にも関わらず行動し被害の拡大を防いだ	1861年～1931年
	80	静岡県	掛川市	静岡県掛川市	名倉五郎助	水不足により育てた稲が枯れるなどの苦しい生活から人々を救うために川底を通る地下水路を造り、100ヘクタールに及ぶ広大な田畑に水を引き人々の生活を支える	100ヘクタールにも及ぶ広大な耕地に水を送るべく川底を通る地下下水路を造る
81		静岡県	菊川市	静岡県菊川市	中条右近太夫	水不足にあえぐ人のために幕府に直接訴え嶺田用水の建設にこぎつけるも、越訴を禁じる幕府に処刑される。死後に井の宮神社に祀られ、井宮様と呼ばれ地域の方から信仰を集める	水不足にあえぐ人々を救うために、幕府に直接訴え嶺田用水の建設に命をささげる
	82	静岡県	牧之原市	静岡県牧之原市	本間賢三	たびたび氾濫する坂口谷川の川幅の拡幅を行い、大井川から水を引き、干ばつに備える為の水路を作る。村人を説得し、皆から集めたお金を元に拡幅工事は行われ、明治4年(1871年)に完成する。大井川から水を引く工事は、長さ300メートルの隧道工事が必要だった。当時は手掘りのため、困難と多くの費用が掛かり、資金がなくなり私財を売り工事を続け、明治9年(1876年)に用水路は完成しました。	坂口谷川の拡幅を行い、大井川から水を引き干ばつに備える為の水路を私財を投じて成し遂げる。
83		静岡県	磐田市		犬塚祐一郎	草崎村（現磐田市）周辺は土地が低く洪水地帯でしたが、この地の水を仿僧川へ流す排水路（鵜島水道）を造り、悪夢であった毎年の水害から救っています。	土地が低く洪水地帯の草崎村（現磐田市）周辺の水を仿僧川へ流す排水路を造り水害から救う
	84	愛知県	安城市	安城市	都築弥厚	「安城が原」と呼ばれる枯れた土地であった地域に用水を通すための測量を行い、幕府に出願しましたが、用水が完成する前に病没します。その後、明治13年に明治用水は通水開始し、碧海地域の土地は飛躍的に開発され、大正末から昭和初めにかけて、「日本デンマーク」と言われるまでの農業地帯となりました。	「安城が原」と呼ばれる枯れた土地であった地域に用水を通すための測量を行い、幕府に出願した。
85		愛知県	知多半島	愛知県知多半島	久野庄太郎	地域は、1947年に大干ばつを受けて溜池が壊滅し大きな被害を受けた。これにより用水設置を求める運動が起こった。このうち、木曾川からの引水を計画したのが篤農家の久野庄太郎と安城農林高校教諭の浜島辰雄である。	木曾川からの引水を計画したのが篤農家の久野庄太郎と安城農林高校教諭の浜島辰雄である。
	86	愛知県	犬山市	愛知県西尾市	伊奈備前守忠次	犬山から弥富にまで続く御園堤を造る。伊奈備前堤とも呼ばれ、洪水の防止に貢献する。「伊奈流」と呼ばれる洪水対策の堤防システムは幕府の基本方とはなる。	犬山から弥富にまで続く御園堤を造る。伊奈備前堤とも呼ばれ、洪水の防止に貢献する。

87	愛知県	豊田市		西澤真蔵	枝下用水の建設に私財を投じ、借金を抱えながらも用水路の完成へと尽力し豊田市南西部の田畑に潤いを与える。死後に枝下用水の守護神として川神社に祀られる	水不足にあえぐ農民たちのために私財を投じ枝下用水を完成へと尽力。枝下川神社に祀られる	1844年～1897年	
	愛知県	知多半島	滋賀県愛知郡	愛知県豊明市	浜島辰雄	木曾川からの引水を計画したのが篤農家の久野庄太郎と安城農林高校教諭の浜島辰雄である。	1916年～2013年	
88	三重県	淀川水系	三重県度会郡南伊勢町（銅像あり）	河村瑞賢	江戸時代の商人。海運と治水の功労者。江戸に出て材木商となり、明暦の大火で巨利を得た。のち、東廻り航路、西廻り航路を開発。淀川水系の工事にあたり、近畿地方の治水工事に大貢献をなした。	港の土砂流入問題から、上流と下流の治水を一体的に整備し、淀川水系の治水工事に大貢献をなした	1618年～1699年	
		三重県	津市	静岡県	西嶋八兵衛	雲出井用水路は、現在の津市、久居市の優良農地約800ヘクタールをかんがいする農業用水利施設。伊勢の国二代目藩主藩堂高次は八兵衛に命じて領内を巡回させた。八兵衛は、藩主の許しを得て、雲出井用水開削の大作りに着手した。	雲出井用水路は津市、久居市の農地約800ヘクタールを灌漑する用水利施設。雲出井用水開削の大作りを完成	1596年～1680年
91	滋賀県	長浜市	滋賀県高月町	恵荘上人	余呉川の氾濫から村を守るために遂道を掘り琵琶湖へ排水する西野水道を完成	余呉川の氾濫から村を守るために遂道を掘り琵琶湖へ排水する西野水道を完成	1778年～1849年	
92	滋賀県		滋賀県	藤本太郎兵衛	琵琶湖の水害をなくすべく、琵琶湖の水位を下げるために瀬田川の川底を深くする治水工事をを行う。工事期間は50年にも及び親子3代に渡り私財を投じ尽力する	水害に苦しんできた琵琶湖周辺に住む人々を救うために親子三代で琵琶湖の治水工事に尽力した	不詳	
93	滋賀県	高島市		松本彦平	土地が高台にあり、周囲の河川から田畑に水を引くこともできない状態であった。そのため貯水池を作らなければならない。松本彦平の下、淡海湖は完成し新田開発にもつながる	水不足に苦しむ人々救うために尽力し淡海湖を造り水を確保した	1856年～1919年	
	滋賀県	長浜市	滋賀県高島市	龍手田安定	第二代滋賀県令であった龍手田安定は、田川の水害に苦しむ月ヶ瀬、田、酢、唐国の4つの村を多くの労力と予算を投じ救う。水害から村々を救った恩人として、水引神社に祀られている	田川の水害に苦しむ4つの村を救うために尽力し、水引神社に祀られる	1840年～1899年	
94	京都府	綾部市	京都府綾部市	近藤勝由	天田井堰と綾部井堰を統合しようと考え、約900メートルの水路を掘り、2つの井堰の水路をつなぐ計画を立てた。困難で無謀な工事だと農民からの反対にあったが、勝由は私財を投じうって工事に取リかかった。これにより、綾部用水の基礎が築かれたのです。	天田井堰と綾部井堰を統合しようと考え、2つの井堰の水路をつなぐ計画実行した。	1827年～1901年	
		京都府	相楽郡加茂町		慈心上人（覚真）	瓶原大井手用水開削の祖大井手水路は、鎌倉時代中期の貞応元年、現在の京都府相楽郡加茂町瓶原の海住山寺の慈心上人が、和東郷石寺の和東川に水源を求め、川に井手枕という堰堤を設け、そこから、幅1.81m、勾配1250分の1、水深0.3m、延長6755mの水路を村人とともに完成させた。	井手水路は、貞応元年、和東郷石寺の和東川に水源を求め、延長6755mの水路を完成させた。	1170年～1243年
96	京都府	京都市	京都府京都市	角倉了以	私財を投じ大堰川、高瀬川を開削工事をしない舟による輸送を可能とし、町の発展に貢献する。他に幕府から命じられた大堰川、富士川の開削工事をこなす。	私財を投じ大堰川、高瀬川を開削し舟による輸送が可能となる。街の発展に貢献する	1554年～1614年	
		大阪府	堺市	行基	奈良時代の日本の僧。寺と僧侶を広く仏法の教えを説き人々より篤く崇敬された。そして行基集団を形成し、道場や寺院を49院、溜池15窪、溝と堀9筋、架橋6所を造った。	行基集団を形成し、道場や寺院を49院、溜池15窪、溝と堀9筋、架橋6所を造った。	668年～750年	
98	大阪府	大阪市	兵庫県豊岡市	沖野忠雄	1916年から2年間土木学会の会長を務める。治水港湾の始祖。豪雨のたびに水害が起きていた淀川の改修工事をこなした。この工事により水量が調節され水害が減少する。	治水港湾の始祖。大阪を洪水から救うべく淀川河川の治水工事を行った	1851年～1921年	
		大阪府	大阪市	オランダ　レーワルドン	ジョージ・アーノルド・エッセ	淀川、寝屋川、鈴江川の三つの河川の交流地点に堤を設置し、大雨時に淀川の水が逆流するのを防いだ。他に坂井港のエッセル堤などの設計を行なった。	淀川、寝屋川、鈴江川の三つの河川の交流地点に堤を設置し水害が起こるのを防ぐのに貢献した	1843年～1939年
100	大阪府	大阪市		仁徳天皇	淀川の水害を防ぐため、日本最古の堤防といわれている茨田堤を築いた。茨田堤は日本書紀や古事記にも記載されており、渡来人の高度な土木技術をもって築かれた。長さは20キロメートルを超える。	淀川の水害を防ぐため、日本最古の堤防といわれている茨田堤を築いた	290年～399年	
	大阪府	枚方市	愛知県名古屋	豊臣秀吉	枚方市から長柄市まで続く約27キロメートルに及ぶ堤防、文禄堤を造った。この堤防により、淀川の氾濫防被害の防止や伏見城と大阪城を今までよりも短い距離でつなぐことができた。	枚方から長柄の間に文禄堤を造り河内平野の村への水被害を抑える	1537年～1598年	
102	近畿	大阪府	枚方市	愛知県名古屋	豊臣秀吉	枚方市から長柄市まで続く約27キロメートルに及ぶ堤防、文禄堤を造った。この堤防により、淀川の氾濫防被害の防止や伏見城と大阪城を今までよりも短い距離でつなぐことができた。	枚方から長柄の間に文禄堤を造り河内平野の村への水被害を抑える	1537年～1598年
		大阪府	東大阪市	大阪府東大阪市	中基平衡	「大阪の川の流れを変えた男」と呼ばれる。50年にもわたり大和川の付け替え工事を嘆願し続ける。付け替え工事では指揮を任せられる。この工事により水害を減らすことができた。	洪水を起こす大和川の付け替え工事のために奔走し、50年の間運動の先頭に立って活動した	1639年～1730年
104	兵庫県	稲美町		魚住完治	「山田川疏水」の詳細な調査を行いました。が、地盤が悪く、工事費が高くなるため、淡河川から取水することとし、1888年に工事にかけ、完治は指導監督に当たり、疏水の完成に大きく貢献した。これにより、710ヘクタールが水田化されました。	山田川疏水は淡河川から取水し、1888年に工事にかけり疏水の完成に貢献した。710ヘクタールが水田化された。	1828年～1899年	
	兵庫県		インド　バンガロール	ヘンリー・S・パーマー	淡河川・山田川疏水の御坂サイフォンを設計した	淡河川・山田川疏水の御坂サイフォンを設計した	1838年～1893年	
106	兵庫県	高砂市		市丸又四郎	加古川の支流である荒井川にはさまれ、頻繁に洪水が起きていた。そのため市丸又四郎は堤防を造る。この堤防により荒井川の水害に苦しめられていた人々が救われることになる。	頻繁に洪水を起こす加古川の支流である荒井川に堤防を造り、水害に苦しむ人々を救う	不詳	
	兵庫県	豊岡市	兵庫県豊岡市	赤木正雄	全国治水砂防協会の設立者。立山の砂防工事、阪神大水害復旧に伴う六甲山砂防工事を指揮するなど、国内砂防技術の基礎を築いた	六甲山砂防工事など国内砂防技術の基礎を築き、「砂防の父」といわれる	1887年～1972年	
107	兵庫県	豊岡市	兵庫県豊岡市	赤木正雄	全国治水砂防協会の設立者。立山の砂防工事、阪神大水害復旧に伴う六甲山砂防工事を指揮するなど、国内砂防技術の基礎を築いた	六甲山砂防工事など国内砂防技術の基礎を築き、「砂防の父」といわれる	1887年～1972年	
108	兵庫県	豊岡市	兵庫県豊岡市	赤木正雄	全国治水砂防協会の設立者。立山の砂防工事、阪神大水害復旧に伴う六甲山砂防工事を指揮するなど、国内砂防技術の基礎を築いた	六甲山砂防工事など国内砂防技術の基礎を築き、「砂防の父」といわれる	1887年～1972年	
	兵庫県	加古川市	兵庫県加古川市	長浜新六朗	加古川の水害に悩まされ続ける人々を見かね、私財を投じ、洪水の際に避難できる山を1756年に完成させた。のちに築山神社が建てられた。	加古川の水害に悩まされ続ける人々を見かね、私財を投じ、洪水の際に避難できる山を完成させた	不詳	

109	奈良県	大和高田市	奈良県大和高田市	中川吉造	11年にも及ぶ大工事である高田川の付け替え工事を指揮する。この工により、水害が減り大和高田市の発展に貢献する。水道の敷設工事も協力する。	河川の氾濫を防ぐため昭和の大工事と呼ばれる高田川の付け替え工事を行う	不詳	
110	和歌山県	紀の川市？	和歌山県伊都郡	大畑才蔵	水利事業に大きな貢献をし、小田井用水路、および藤崎井用水路の紀の川から引水した大規模かんがい用水・疏水工事を行った人物として知られる。	小田井用水路、および藤崎井用水路の紀の川から引水した大規模かんがい用水・疏水工事を行った。	1642年～1720年	
111	和歌山県	和歌山県有田郡	和歌山県有田郡	濱口梧陵	「稲むらの火」のモデルである。安政南海地震により壊れた橋や津波から人を守るための広村堤防を私財を投じて修復する。このことを小泉八雲が小説にし、「生ける神」と書いた。	津波から人々を救った「稲むらの火」のモデルであり、津波から守るための広村堤防を修復する	1820年～1885年	
112	和歌山県	御坊市	和歌山県御坊市	柏木浅右衛門	干ばつによる飢饉に苦しむ村人のために、ため池造りを決心し、私財を投じて完成へと尽力するも志半ばにして逝去する。柏木浅右衛門の死後3年後に新池が完成する	干ばつに苦しむ人々のために私財を投じ、農業用ため池の新池を開発した	？年～1834年	
113	和歌山県	御坊市	和歌山県御坊市	栗本新兵衛	天保の大飢饉により多くの餓死者がでた。栗本新兵衛は貧しい人を救うために日高川沿岸を埋め立てる工事を私財を投じを行った。これにより「茶新新田」と呼ばれる新田が開発される	貧民救済のために私財を投じ、日高川沿岸を埋め立て「茶新新田」と呼ばれる新田を開発	不詳	
114	和歌山県	御坊市	和歌山県御坊市	鈴木立庵	水が少ないため、水田がわずかにない土地に2000メートルもの灌漑用水路を私財を投じて造る。このことにより、岩内・熊野に新しく水田が造られた	干ばつに苦しむ人々を救うため、私財を投じ治水工事を行い岩内・熊野に新田を開発	不詳	
115	和歌山県	御坊市	和歌山県御坊市	平井正次	日高川沿いの土地は堤防が十分でなく豪雨のたびに荒れていた。荒れ地を改良すべく土地に水を引き、若野井堰を造り荒れた土地を水田へと変え石高を増やした	若野井堰を設計し、日高川沿いの広大な荒れ地の開発を行う	1580年～1657年	
116	鳥取県	鳥取県鳥取市	鳥根県松江市	亀井茲矩	大井手用水の祖 1600年（慶長5年）から7年の歳月をかけて、延長16キロメートルにも及ぶ「大井手用水路」を造り、その後、荒れ地や畑の開墾を行った結果、千代川西側には、当時、1,200ヘクタールもの穀倉地帯が造られました。	7年の歳月をかけ延長16キロに及ぶ「大井出用水路」造り荒れ地や畑の開墾を行う	1557年～1612年	
117	鳥根県	出雲市	鳥根県出雲市	大槻七兵衛	日本海に面した荒木浜（出雲市大社町）一帯の砂丘が、海から吹き付ける強い西風に加え、水にめぐまれなために作物ができず、自然の荒らすまになっているのを見て心を痛めました。そして、自分の私財を投げ出してでも、この地の開拓を成しとげようと決意を固めました。用水路を通す土地は、砂地のため水が地面に吸い込まれてしまいます。そこで、川床にむしろを敷き、粘土で固めて水が漏れないようにしました。こうして、川幅約6メートル、全長約8キロメートルの用水路（高瀬川）ができあがりました	高瀬川の治水工事を行い地域の発展に貢献した	1621年～1689年	
118	鳥根県	松江市	鳥根県松江市	周藤彌兵衛	八雲村の剣山を切り崩し意宇川の流れを変え洪水から村を救う	八雲村の剣山を切り崩し意宇川の流れを変え洪水から村を救う	1650年～1752年	
119	鳥根県	安来市		ト蔵孫三郎	江戸中期、私財をなげうって不毛の池を埋め立て、5ヘクタールの広大な水田を開発したト蔵孫三郎。	江戸中期に私財を投げうち不毛の池を埋め立て、5ヘクタールの広大な水田を開発した	1696年～1721年	
120	鳥根県	松江市		清原太兵衛	出雲松江藩士。普請方吟味役。宍道湖の治水策として、日本海とつなぐ排水路の開削を藩主松平治郷（はるさと）に進言し、普請奉行に登用される。天明5年から全長約12kmの水路（佐陀（さだ）川）をほりすめたが、7年11月28日完成を目前にして死去。	宍道湖の治水策として、排水路の開削を藩主松平治郷に進言し、普請奉行に登用される	1712年～1788年	
121	鳥根県	松江市	スコットランド エディンバラ	ウィリアム・K・バルトン	日本の衛生工学・上下水道の父。松江市他23都市の近代水道が完成。バルトンの設計は、実地工事上の段階で大幅に変更せざるを得ないものではあったが、帝都上下水道の基本計画となり、東京、神戸、福岡、岡山などの上下水道の基本調査を担当した。凌雲閣の基本設計者でもある。	松江市をはじめ24都市の水道施設の近代化を実現した	1856年～1899年	
122	岡山県	岡山市	岡山県岡山市	津田永忠	「2,800ヘクタールを超える新田を開いた」岡山の城下を流れる旭川は川が浅く、たびたび、洪水の被害が発生しました。また、米の取れる量も現在に比べ少なく、日照りや洪水により饑もたびたび、起こっていました。旭川の洪水を防ぐため、新たな川を掘ることを考案し、1669年に蕃山の弟子の津田永忠により川の掘削が行われ、現在の百間川ができあがりました。	旭川の洪水を防ぐため、新たな川を掘ることを考案し、川の掘削を行い、現在の百間川を作った	1640年～1707年	
123	中国	岡山県	岡山市	岡山県岡山市	石川善右衛門	江戸前期の水利土木家。承応3（1654）年7月備前各地に大水害が発生。藩主池田光政の命を受け被害が激しかった児島郡の救済に当たった。各地を視察し、旱水害の地児島郡に福林池、森池をはじめ、郡内各地に300余の池を造成し、旱害の憂いを除いた。後年の文化3（1806）年郡民によって瑜伽山に頌徳の記念碑が建てられた。	旱水害の地児島郡にて福林池など三百の池を造成し旱害の憂いを除いた	1607年～1670年
124	岡山県	岡山県岡山市	オランダ ライデン	アントニー・トーマス・ルベル	児島湾干拓調査にあたり彼は、この地方の伐採され荒れ果てた山々を見て驚き、このままでは、土砂流出、洪水の害は治まらず、古田の湿田化も止められないとし「児島湾開墾復命書」のなかで、干拓工事の手順や工法だけでなく、伐採の禁止と河川上流部での砂防の必要性を強く説いた。	「児島湾開墾復命書」の中で、干拓工事の手順や工法の他、伐採の禁止と河川上流部での砂防の必要性を強く説いた。	1848年～1901年	
125	岡山県	久米南町	岡山県久米南町	河原善右衛門	江戸時代の寛永8（1631）年に、現在の久米南町下月削に生まれ、長じて大庄屋となり貧困にあえぐ農民たちを何とか救済したいと発念。干天の水不足、洪水など、天候に翻弄される郷土の農業改革を目指して、河川の改修、田畑の開墾・灌漑施設づくりなど、数々の大事業に私財を投じて取り組みました。	水不足、洪水などに翻弄される農民を救済したいと、河川改修、田畑開墾・灌漑施設づくりに私財を投じる。	1637年～1685年	

126	広島県	安芸高田市		咽声忠左衛門	矢橋井堰を切り開いた 江戸時代、安芸高田市八千代町上・中土師地区は、川よりも高いところにあるため、この水を田畑に利用できず、しばしば水不足でお米を収穫できないで困っていました。上流から水を引くための用水路を作り約8キロメートルの水路が掘られ、約18.6ヘクタールの田畑に水を送ることができました。	川よりも高い中土師地区へ上流から約8キロの用水路を作った	不詳
127	広島県	尾道市	尾道市	山口玄洞	関西や尾道の公共事業や慈善事業、寺社に寄付した。大正・昭和における寄付金王とまで言われている。記録に残る主なものだけでも147件の寄付・寄進をしている。初期は特に教育関係、ついで病院・水道などの社会事業関係、そして災害の義捐関係が目につく。	大正・昭和における寄付金王とまで言われている。初期は教育関係、ついで病院・水道などの社会事業関係に寄付をした。	1863年～1937年
128	広島県	広島市	安佐南区	桑原卯之助	江戸時代の始めごろ、八木・緑井・長東などの安佐南区の太田川右岸は、農業用水に乏しく、稲作に適さなかったため、そば・大豆・粟などの雑穀に頼って生活していました。水車や井戸・堰を作って用水を確保しようとしたが、どれも失敗に終わりました。卯之助は、太田川の水を引き入れることを思いつき、用水路の掘削に取りかかりました。卯之助は、何度も調査を重ね、緻密な傾斜角の計算を、八木の十歩一を取水口に決め1768年にやぎ用水が完成	八木用水を完成させ地域住民を旱害から救った	1723年～1783年
129	山口県	周南市		岩崎想左衛門重友	鹿野の命を拓いた 鹿野台地は、周辺の錦川や渋川よりも高台にあるため、村人たちは毎日遠くへ水汲みに行っていました。これを見た岩崎想左衛門重友は、なんとかこの台地に水を引き、村人の生活を楽にしようと考えました。	鹿野台地へ、漢陽寺裏山を掘り抜き渋川より水を引いた	1598年～1662年
130	徳島県	阿波市	徳島県阿波市	井内森太郎	江戸時代から吉野川流域の農地ではたくさんの藍が作られていました。明治30年代以降、化学染料の輸入等によって、藍は急速に衰退していききました。農家の人たちは、藍にかわってお米を作りたいと思いましたが、たくさんの水が必要となるために、当時はお米を作ることができませんでした。吉野川から農地まで水を引いてくることが(用水路の建設)を考え、反対する人たちを説得し、優れた工事技術によって、吉野川の北には「板名用水」、南には「麻名用水」という二つの大きな用水路を、約7年をかけてはば同時期に完成させました。	吉野川から農地まで水を引くことを考え、反対する人たちを説得し、優れた工事技術により、用水路を完成させた	1854年～1934年
131	香川県		静岡県浜松市	西嶋八兵衛	讃岐平野は古来降雨が極めて少なく、農民たちは水の確保に苦労してきました。日照りが続くと水に困窮し、大雨になると鉄砲水が民家や田畑を押し流し被害を出すという讃岐において、治水利水事業は急を要するところでした。農業用水確保のため、讃岐のため池の築造・改修に活躍しました。	讃岐のため池の築造・改修を実施して農業用水を確保した	1596年～1680年
132	香川県	高松市 東かがわ市	香川県東かがわ市	久米通賢	1824年（文政7年）、このころ、財政難に陥っていた高松藩の第9代藩主松平頼恕は、通賢の才能を見込んで財政再建策を頼った。通賢はこれに応じて阿野郡坂出の浜に新たな塩田を開発することを進言。1826年（文政9年）、高松藩はこの案を採用し、通賢は塩田開発の陣頭指揮を執るだけでなく、自ら率先して作業に参加したため工夫達の士気も上がり、工事ははかどった。ところが高松藩の財政難は深刻で、途中から塩田開発工事資金がとどこおるようになった。通賢は工事を完成させるため、私財を投入して工事を継続させた。	高松藩の財政難を立て直すため塩田開発に私財を投入して工事を継続させた	1780年～1841年
133	香川県	高松市	香川県高松市	藤川三溪	1817～1889　幕末一明治時代の医師、水産開発者。維新後は捕鯨のために開洋社を設立。また東京に大日本水産学校、大阪に大阪水産学校を創立するなど、水産事業につくした。	大日本水産学校や大阪水産学校を創立し水産事業に尽くした	1817年～1889年
四国	香川県	観音寺市	香川県観音寺市	加地茂治郎	大正13年(1924)の夏、香川県は厳しい日照りに襲われた。瀬戸内海に面した香川県は元々雨が少なく、昔からため池をつくって作物を作ってきたが、この日照りによって、池の水は枯れ、水田はひび割れ、イネはたちがい、農民たちは飲み水にも困るほどだった。池をつくるようにとの農民たちの訴えに茂治郎は柞田川(くにたがわ)をせき止めるダム建設を計画した。国や県議会に出向き、工事費用の負担を交渉、また、貧しい農民のため、農民の収入となるように工事は地元農民たちで行うことにした。	柞田川を堰き止めるダムの建設を計画し、工事負担を交渉するだけでなく農民の収入になるように工事を行った	1869年～1940年
135	愛媛県	久万高原町	兵庫県姫路市	山之内彦左衛門	久万盆地を流れる久万川は、深い谷となっているため、そのままでは水田に水を引くことが出来ず、人々は川の上流にせきをつくり、そこから数十もの「掛樋※」を連ねて農業用水を引いていました。台風や大雨の洪水によって、掛樋はたびたび流されました。急いで掛樋の修理をするのですが、その苦労は大変なものでした。この苦しみから人々を救うため、掛樋の代わりに岩山を切り開いた用水路をつくる工事に着手しました。	久万川上流から水田に水を引くため岩山を切り開いた用水路をつくる工事を完成させた	1614年～1698年
136	愛媛県	松山市	岐阜県	足立重信	藩きっての土木技術者だった足立重信は、松山城を築くにあたって、当時あちこちに氾濫して流路の定まらなかった伊予川(いよがわ)(重信川)を固定し、川幅を広げて強固な土手を築きました。これによりこれまで荒地地であった約50haの新田が拓かれたほか、周囲の約5000haもの水田が水利の恩恵に浴しました。当時、城を作る勝山の南麓(なんろく)を抜け、幾度となく洪水を繰り返す暴れ川であった石手川(いしてがわ)を南(現在の流路)へ付け替えさせました。	伊予川の灌漑工事では流路12キロに渡って開削し堤防を築き大改修を行い、流域に広大な耕作地を生み出した。	生年不詳～1625年

137	高知県	高知市	姫路市	野中兼山	高知平野の水田開発を拓いた。江戸時代初期には、台風による洪水などにより、見渡す限り荒涼とした大地が続き、当時の我が国において、土佐は辺境の貧しい国の一つに数えられていました。そのような土佐を、信念をもって藩政の改革に取り組み、かんがい用水と新田開発を強力に押し進めた。	貧しい国に数えられていた土佐を、信念を持って藩政の改革に取り組み、灌漑用水、新田開発を押し進めた	1615年～1663年
138	福岡県	朝倉市	福岡県朝倉市	古賀百工	大干ばつが起こりこれを機に筑後川から水を引くための用水工事が行われ翌年には水田を潤す堀川用水が完成した。その後拡張を断り願い出し認められ完成。根本的に水害干害から住民を守るために堀の大改修を実現した。	水害・干害から住民を守るために筑後川本流山田堰の大改修を実現した	1718年～1798年
139	福岡県	久留米市	福岡県筑後市	高山六右衛門	筑後川北岸の床島で大干ばつがあり農作物が全滅となった時に用水路を作る計画を提出し許可され完成してからも堰を作るなどの拡張を断り強く続け今でも地域に恵みをもたらしている	筑後川北岸の床島に水不足解消のため堰を築き田畑を潤した	生年不詳～1734年
140	福岡県	柳川市	滋賀県高島市	田中吉政	江戸時代の筑後国主。筑後川沿岸住民は洪水により荒野になってしまふのが悩みだった。筑後川河畔にある葦野を開拓して耕地の拡張を命じ、自らも海岸埋立を企画し、汐土居の築堤に着手した。また、筑後川の流れを深くして舟運の便をはかった。さらに国内各いる。築堤したといわれている。	筑後川河畔にある葦野を開拓して汐土居の築堤を行い、治水に尽力した	1548年～1609年
141	福岡県	豊前市	福岡県豊前市	高橋庄蔵	県議会議員になり地元の問題解決として水を供給するための池を作ろうと11年間動いた。完成を待たずに帰らぬ人となったが今も矢方池は地域の水田を潤し、農民は用水に困ることなる秋には豊か実りを得ています。	11年灌漑用の矢方池の築造を計画、私財を投じて着工し完成に導いた	1836年～1891年
142	福岡県	筑前町	福岡県筑前町	長卯平	江戸時代に戸原村大庄屋を務めた長は、水利に恵まれない郡の山に新開池仕掛水路を作ることを計画し7年で完成させ、尚且つ、私財を応じて地域に貢献したその偉業は、今も生活に恩恵を与え続けている。	水利に恵まれない郡の山をほりめく灌漑水路建設を計画し7年で完成させた	1759年～1837年
143	福岡県	大刀洗町	福岡県久留米市	草野又六	土木工事の技術にすぐれ、久留米藩士にとりたられる。筑後川北岸地区の三井郡一帯の土地は川面より高く水田として利用されず、わずかな田畑もたびたび干害に襲われ、農民は飢饉に迫られる状態であった。床島堰と恵利堰の建設工事を指揮して正徳4年完成させ新田約400haをひらいた。	床島堰と恵利堰の工事を指揮・完成新田をひらき飢饉に苦しむ農民を救う	1678年～1731年
144	福岡県	うきは市	福岡県うきは市	田代重栄 田代重仍(子)	筑後生葉郡吉井村の大庄屋。郡東部の荒れ地に筑後川の水をひく用水路の開削を計画し、寛文12年久留米藩の援助をえて工事を開始。久留米藩より借りた33貫目を使い果たし9貫目ほどに手を出し、思うほど水量が無かった為更に数十貫目の私財を投げうつなどして延宝4年袋野堰の通水に成功した。	筑後川中流域の荒野に筑後川の水を引き、田畑を潤そうと親子で私財を投じ「袋野隧道」を完成させる	1616年～1687年
145	佐賀県	佐賀市	佐賀県佐賀市	成富兵庫茂安	川が大雨が降ると洪水となり農民たちは水不足に苦しんでいた。そこで石井堰という施設を考え建築し、その後洪水被害も治まり田畑に必要な水量も確保でき農作物の収穫も安定した。治水の神様と呼ばれている。	多布施川を築造し、川上川からの分岐点に大きな石閘を設け洪水で水不足に苦しんでいたに石井堰を作った 治水の神様と呼ばれている	1560年～1634年
146	長崎県	波佐見町	長崎県波佐見町	深澤儀太夫勝清	くじらとりをしたお金で新田やため池を造って寄付していた。なかでも野岳村は雨で川はあふれ、目では水がなくなっていたので大きな堰を作れば良いと考え野岳湖が完成し豊かになり村人を救った。	水害に見舞われていた野岳村に堰を作り(野岳湖)、村人を救った	1584年～1663年
147	長崎県	長崎市	長崎県長崎市	倉田次郎右衛門	水が乏しくもらい水をしていた長崎は寛文の大火に見舞われそれにより一念発起し自費により水道を引こうと考えた。そして1673年に長崎で最初の水道が完成し、現在の水道の元となっている。	水が乏しく大火に見舞われた際に長崎市で最初の水道を作ることを考え完成させた	生年不詳～1703年
148	熊本県	熊本市	愛知県名古屋市	加藤清正	肥後北半国の領主として来た加藤は暴れ川と呼ばれる白川が田畑に洪水を与え大被害をおわせていることを無くそうと、堰替えや堰・井出や石割を作るなどの工夫をして田畑を豊かにした。	堰替えや堰と井出や石割を作り肥後治水と利水事業を拓いた	1562年～1611年
149	熊本県	山都町	熊本県	布田惟暉	養父布田太郎右衛門の土木治水事業の影響を受け、嘉永7年に通潤橋(石造アーチ型の通水橋で国の重要文化財)を完成させるなど、橋・道路を建設し失部の開発に努めた。それにより天保の大飢饉から農民を救った。	荒地の白糸台地を灌漑した通潤橋を建設し、天保の大飢饉から農民を救った	1909年～1984年
150	熊本県	熊本市	熊本県熊本市	千々波敬右衛門	水不足で村人が困っているのを見て、私財を投じて白川下流に大石堰をつくり、掘割を設け用水路とした。完成前に病死したが明治四年に用水路は完成し、村人に恵みを与えた。	水不足で村人が困っているのを見て川に大石堰を作り掘割を設け用水路を完成させた	不詳
151	熊本県	上益城郡益城町	熊本県上益城郡	富田茂七	その地域では土地が高く水利の便が悪く乾きやすい地面で村人は苦しい生活をしてた。その高低差を利用し用水路の工事を開始。工事していく中で失敗をしながらも負けることなく完成させ今でも一面に美しい田畑が広がっている。	12年間工事に取り組み用水路の通水に成功し近隣の荒地が一面美しい田畑となった	1760年～1837年
152	熊本県	玉名市	熊本県玉名市	桜井又吉	土木技術に優れ、堤防を築き、水門をつかった。のちに村人は桜井祭をおこない、徳をしたった	土木技術に優れ、堤防を築き水門をつくり村人から徳をしたわれた	1758年～1830年
153	大分県	日田市	大分県日田市	広瀬久兵衛	小ヶ瀬井路は総延長2,754m、日田市小ヶ瀬町の玖珠川から取水し、豆田町を抜け、再び玖珠川の支流に流れ込み、水田約500haを灌漑しています。この水路は日田市内を血管のように流れているため、日田市が水郷すいきょう日田と呼ばれる由縁となりました。	干ばつに苦しむ人々のために小ヶ瀬井路を完成させ農業水利施設の礎を造った	1790年～1871年
154	大分県	宇佐市	大分県宇佐市	南一郎平	その地域は水不足で畑地しか利用されておらずお米を作るためにまず水を引きここと水利事業に取り組んだ。誰も不可能だった広瀬井手を完成させ人々を豊かにすることに生涯を捧げた。	広瀬井手の高森水路を開発、その後明治政府の水利開墾事業に従事した	1836年～1919年

155	大分県	中津市	大分県	内海作兵衛	承応三年藩命により中津城下に石の樋をうめ、上水道を敷設した。また、下毛郡樋田村の山国川から取水する荒瀬井路の建設を手がける。灌漑面積は28か村1000ha余におよんだ。	石の樋をうめ上水道を敷設したり、井路の建設を手がけた	1624年～1706年
156	宮崎県	延岡市	宮崎県延岡市	藤江監物	農業用水が無く水田がない関之尾の人々から懇願され、庄内川の関之尾滝上流から水を引くため、ノミとツチだけで岩を掘り抜き約10年の苦難の末、1896年に北前用水路を完成させました。この用水路は、自然の落差を利用した取水口や落差工、余水吐など坂本の高い技術力により完成しました。	土地が川より高かったため水を引けず困っていたところに岩熊井堰を拓いた	1687～1731年
157	宮崎県	都城市	宮崎県都城市	坂元源兵衛	農業用水が無く水田がない関之尾の人々から懇願され、庄内川の関之尾滝上流から水を引くため、ノミとツチだけで岩を掘り抜き約10年の苦難の末、1896年(明治29)に北前用水路を完成させました。この用水路は、自然の落差を利用した取水口や落差工(女滝)、余水吐(男滝)など坂本の高い技術力により完成しました。	水田がない関之尾の人々から懇願され庄内川の上流から水を引くため、ノミと樋だけで岩を掘り抜き北前用水路を完成	1840年～1918年
158	宮崎県	三股町	宮崎県都城市	宮田盛儀	村会議員となり用水路開発による村勢の振興に意を注ぎ、水川から水路を引き水田を開いた。それからも水田を開いていき7年をかけて130ヘクタールに及ぶ広大な水田開発を成功させ、村人のために尽くした。	三股町長田で用水路開発し水田を開き、村の生活を豊かにした	1876年～1963年
159	宮崎県	小林市	宮崎県小林市	田丸貞重	水利に恵まれなかった野尻町の畑地を水田にしようとするの私財をつぎ込んで努力しその結果三つの川から取水する大幹線用水路を県営工事で行い、用耕水路及び道路・開墾開田を行なった。	水利に恵まれなかった野尻町に、自らの資財をすべてつぎ込んで野尻原開田事業をおこした	1875年～1932年
160	宮崎県	宮崎市	宮崎県宮崎市	黒木七左衛門	清武川支流の水路改修につとめ、新田を開発。また、正手の水路を整備し洪水をふせいだ	清武川支流の水路改修につとめ新田を開発、また正手の水路を整備し洪水をふせいだ	1796年～1873年
161	宮崎県	宮崎市	宮崎県宮崎市	松井儀長	私財を投じて水不足に苦しむ郡に川から水を引く方法を研究後、水路を完成させた	私財を投じて水不足に苦しむ郡に川から水を引く方法を研究後、水路を完成させた	1570年～1657年
162	宮崎県	西都市	宮崎県西都市	児玉久右衛門	この地帯は水利の便が非常に悪く水が乏しい地域でこれを見かねた児玉は米良川より水を引き水路と井堰造りに着手した。途中、洪水による堰の流失など問題があったが完成した。	水不足解消のため用水路と杉安井堰築造を計画、完成させた。	1688年～1761年
163	鹿児島県	有明町	鹿児島県有明町	野井倉甚兵衛	昭和16年に工事施工が決定され、翌年に水田520ha、畑100haの開墾計画で着手しました。途中、戦争により、一時は施工中止など困難な状況に陥りましたが、昭和24年に用水路が完成し通水式が行われました。そして、甚兵衛が81歳となった昭和28年に全ての工事が完成し、野井倉開田工事が終わりました。	お米を有明の土地で作りたいと考え国に反対されても諦めずに開田に一生を捧げた	1874年～1960年
164	鹿児島県	志布志市		馬場藤吉	東京で医者になっていて藤吉翁は、28歳の時蓬原に帰って馬場病院を開きました。荒れた台地に水を引き生活に苦しむ村人を助けてやりたいと明治45年に組合を作り組合長になりました。そして自分の財産を全て売って水を引く権利を譲り受け、大正7年430haの開田に成功しました。44歳のときでした。蓬原開田事業の停滞を自ら組合を作って立ち上がり灌漑した	蓬原開田事業の停滞を自ら組合を作って立ち上がり灌漑した	1875～1922
165	沖縄県	那覇市	沖縄県那覇市	蔡温	水田の里を拓いた　王府の自給体制を高めるため、殖産興業の振興を図り、農業の改良に取り組み、山林の保護育成を図った。	水田の里を拓く　王府の自給体制を高めるため、殖産興業の振興、農業の改良に取り組み、山林の保護育成を図る。	1682年～1761年
166	台湾	台南市	石川県河北郡	八田與一	巨大な烏山頭ダムと恐ろしい程の長さの水路からなる嘉南大圳を設計・完成しました。	巨大な烏山頭ダムと恐ろしい程の長さの水路からなる嘉南大圳を完成した。	1886年～1942年
167	台湾	宜蘭市	鹿児島県奄美大島	西郷菊次郎	宜蘭市では台風がくると川が洪水し住民が長年苦しんでいた。そこで多額の補償金を引き出し1年5ヶ月かけて堤防を築き洪水を止めた。	台風で川が洪水し住民が長年苦しんでいるところに1年5ヶ月かけて堤防を築き洪水を止めた。	1861年～1928年



QRコードをスマートフォンまたはタブレットの
カメラで読み取り動画をご覧ください

ダイジェスト動画
(映像時間: 10 分)



人間自然科学研究所

<https://www.hns.gr.jp/>

〒 690-0046 島根県松江市乃木福富町 735-188
TEL: 050-3161-2490 FAX: 050-3161-3846

無断転載禁止
No reproduction or
publication without written
permission.
ver.20190509 y.kobayashi